

令和6年度 地域循環共生圏づくり支援体制構築事業 キックオフミーティング 資料

活動団体の活動におけるテーマ

『**豊かな自然と地域の宝を未来へつなぐ旅**

“ビー・ジー・サス・ジャーニー”

Blue-Green-Sustainable Journey

持続可能な観光プラットフォーム構築

』

活動団体の活動地域：岩手県 釜石市

活動団体名：株式会社かまいしDMC

中間支援主体名：一般社団法人ゴジヨる



活動団体の紹介

株式会社かまいしDMC



【地域創生事業部 “根浜シーサイド”】

- ・活動エリア：釜石市の鵜住居・片岸・根浜・箱崎
- ・事業：施設管理企画運営、プログラム企画実施
地域産品プロデュース、地域創生活動他
- ・ミッション：
観光地域づくり法人として、地域の観光資源及び
産品の魅力を最大限引き出し、地域経済を活性化、
住まう誇りを醸成すること



【持続可能な観光 Green Destinations 2024 ゴールド獲得】



釜石市は2018年に日本初 GD100選に選出され、以来、日本の「サステナブルツーリズム」のフロントランナーに。2024年には日本初「ゴールド」レベル獲得。
弊社は釜石市のサステナブルツーリズムの推進役を担う。

地域の紹介

【鵜住居・根浜エリア】

美しい砂浜に面し、海山川が交わり、そこに住む漁村住民と漁業文化が息づく自然文化の豊かな地域で、釜石の漁村観光と体験ツーリズムを支えてきました。

東日本大震災の大津波を経験後、地域では自然と景観を守るなどのため、防潮堤を低く保持し、住民が海に見える高台へ移転。さらに、壊れた環境の復旧と保全を行うなどの取組が積極的に起こり、さまざまな活動が課題に直面しながらも継続されている。体験活動は根浜シーサイドを中心に継続的に行っています。



活動団体と地域の紹介

【根浜シーサイド ～釜石市 自然とつなぐ公共施設～】

- ・ 「豊かな海山川という自然環境と文化の中で、自然と人、
人と人、自然と人とスポーツを結ぶ、学びの体験施設」
- ・ 東日本大震災の大津波から再生された観光施設
- ・ 「三陸ジオパーク」「三陸復興国立公園」「みちのく潮風トレイル」交流拠点
- ・ 地域に見守られ、地域と共に歩むキャンプ場、地域活動の拠点
- ・ 持続可能性と環境共生を軸に取り組む



活動について



活動計画（概要）

地域循環共生圏の構築を通じてありたい地域の姿

～ここを訪れたい・つながりたい・まなびたい・仲間になりたい・持続可能な地域～

それぞれの活動チームがゆるやかな連携をとりながら、つながりあい、根浜全体の地域の魅力を作りあげ、外から訪れた人々がそれらの魅力を体験できる環境がととのい、心の仲間が増えていくこと。またその結果、つながりの中で経済の循環が生まれること。持続可能性の体験をクリエイト！

地域に必要なプラットフォームの体制や仕組み ローカルSDGs事業として取り組む内容

■かまいしDMC(根浜シーサイド)=環境x観光プラットフォームの総合プロデューサー

■地域の活動団体・事業者・住民

- ・ゆるやかな&好つながり保持
- ・全体で鵜住居&根浜の魅力につなげ、活性化していく想いを共有する
- ・地域の経済循環に向けて協働
- ・ボランティアガイドなど住民参加の促進

環境 x 観光 x ○ ○ の事業タネづくり

- ・各団体の活動、提供価値の見える化
- ・環境・観光コンテンツの価値の認識と共有
- ・地域内外つながり創生(誘客施策・情報発信)

【生物多様性】自然体験イベントや講習会

【教育】環境教育プログラム考案

【福祉】障がい者旅行のためのユニバーサルビーチとキャンプ場の整備検討

などに取り組む。

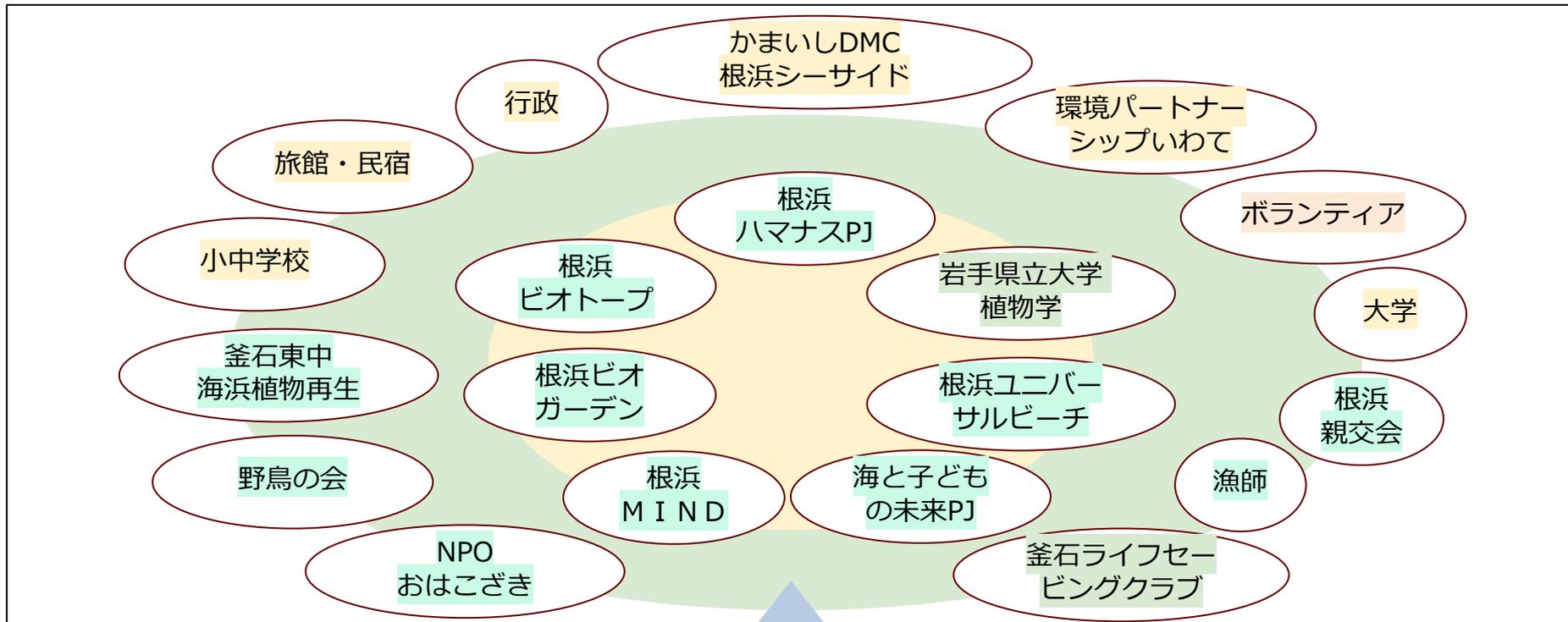
地域の現状

【課題】

- ・良い活動だが担い手が増やせていない、活動が活発にならない、資金が作れない...という悪循環
- ・「持続可能な観光のフロントランナー釜石」「ストーリー性のある根浜」を活かしきれてない
- ・交流人口に対して、地域の良さが活かされてない、見える化できてない
- ・つながれる仕組みやツールが整ってない、第二の故郷になるには
- ・「隠れた魅力」状態である地域の魅力をもっとアピールする必要がある

目指す“地域プラットフォーム”のイメージ

現時点での体制



【足りない資源】

- ・ヒト：地域人材⇒主体的にコアに関わる仲間、地域外⇒資金提供、情報発信、イベント参加する仲間
- ・資金：ツアーやプログラム企画、情報発信や誘客のためのPR、ボランティアガイド育成などの費用
- ・提携先：環境教育や体験ツアーに参加する小中学校、大学、企業など
- ・専門知識・情報（環境教育・観光教育・障がい者旅行などの専門家や先進事例の情報）

3か年状態目標

2026年度末の状態目標

【環境x観光プラットフォーム構築の実装】

- ・ 仲間と協力しながら、体験ツアーなどのプログラム実施 (目標: 企業・教育機関 5つを新規開拓)
- ・ 訪問者数を増やし(2023年比で150%)、地域経済が循環する仕組みをつくる
- ・ 各団体の持続可能性、経済性を高めるサポートを行っている
- ・ 観光客および地域住民のウェルビーイングのための環境整備に取り組む

2025年度末の状態目標

【地域ビジョン実現のための体制づくり】

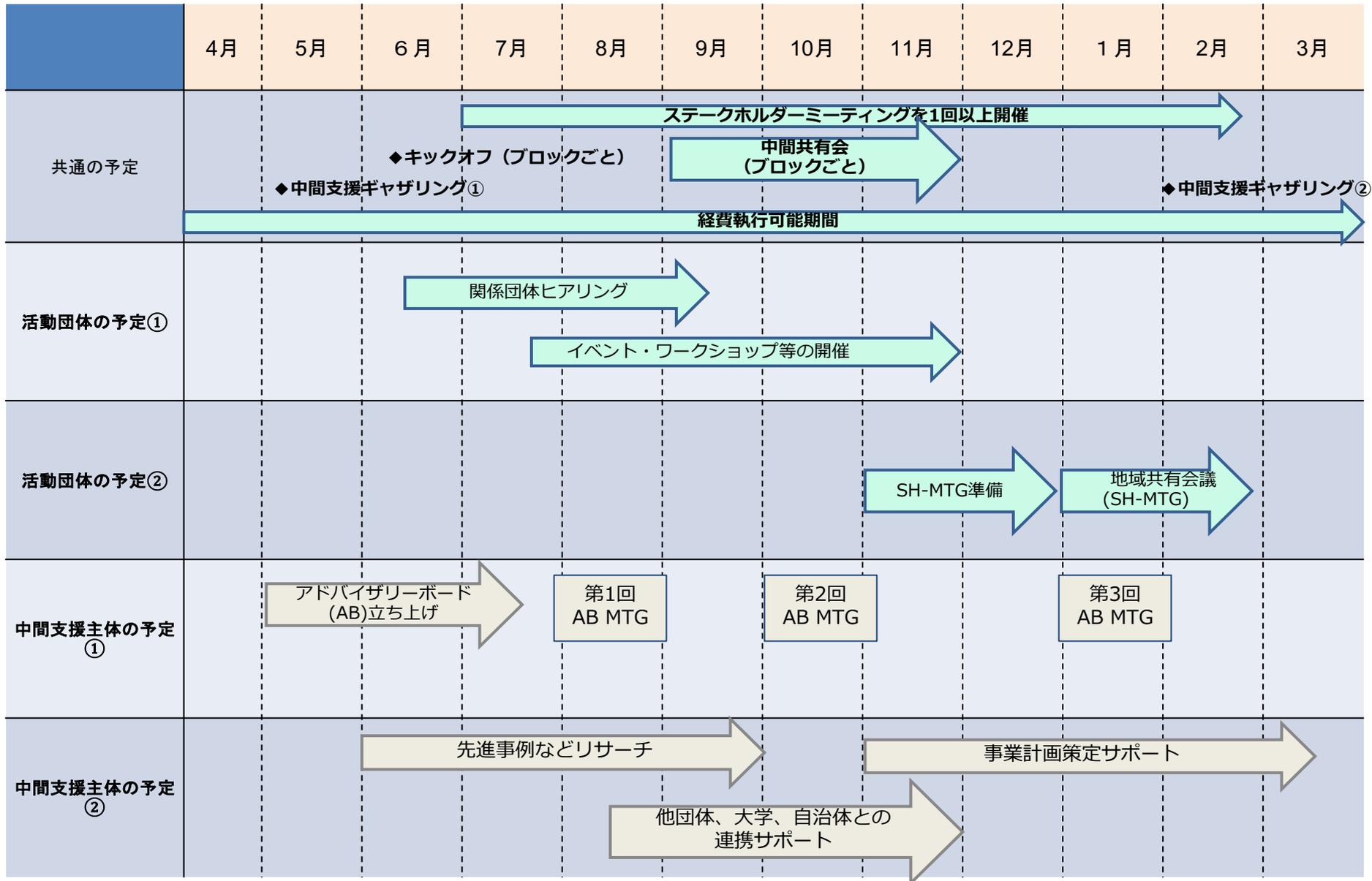
- ・ 仲間とつながる情報共有やコミュニケーションの仕組み作り
- ・ 釜石市の地域観光ビジョンと計画に沿った事業を試験的に行う
- ・ 環境x観光プラットフォーム構築における、各々の役割を設定している
- ・ 事業立ち上げのための環境整備、ボランティアガイド育成準備に取り組む

2024年度末の状態目標

【基盤の整備】

- ・ 既に繋がりのある活動団体やキーパーソンを見直して、仲間探しを行っている
- ・ 地域の活動団体と、課題の共通認識を持つ、地域のビジョンをブラッシュアップしている
- ・ 釜石市の地域観光ビジョンと計画に沿った事業を考案する
- ・ 仲間と協力しながら、環境教育プログラムや体験ツアーを考案

活動計画



中間支援主体より

- ・団体名 : 一般社団法人ゴジョル
- ・活動エリア : 岩手県 釜石市
- ・事業 : 社会福祉事業、地域商材販売事業、林福連携事業



- ・ミッション : 東日本大震災で甚大な被害を受けた被災地の持続可能性の向上のため、地域の課題を連携・協働で解決を促す

活動団体の取組へのコメント、中間支援の方針・計画

■ 活動団体の取り組みについて

- ・既に多数の団体や人との繋がりがあり、観光と環境コンテンツを熟知している
- ・連携先となる、草の根活動は活発だが小規模なので、持続可能性に乏しい

→地域のビジョンを共有し、環境x観光プラットフォームの設計図を描くことで、地域循環共生圏づくりにつなげていきたい。

■ 中間支援の方針・計画

- ・地域伴走型の効果の高い支援体制づくり
- ・縦、横、斜めのバランスを調整するコーディネート
- ・地域伴走型シンクタンクの核となるアドバイザリーボードの運営